

2022年度 ドコモ市民活動団体助成事業 活動成果報告書

2023/9/29

団体名	NPO維新隊ユネスコクラブ	活動タイトル	食事つき無料自習室「STUDY CAMP」の運営と集中力測定webアプリの活用
<p align="center">望ましい社会状況および団体のビジョン（社会的役割と活動基盤）</p>		<p align="center">■ 活動風景</p>	
<p>●地域の望ましい社会状況(ビジョン)</p>	<p>当団体が望む社会状況とは、生まれ育った環境（家庭・学校環境）によって、学習や進学の機会が損なわれないことがない社会の実現である。そのため、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の授業が理解できないが家庭の低所得によって塾通いができず分らないままになっている。 ・自宅で自習できる環境がなく、テストや受験勉強ができないことで希望する進路へチャレンジする機会が得られない。 ・不登校により学校が学習の場として機能しておらず、学力が低いまま進学に悪影響を及ぼしている。 <p>といった困難な状況が改善された、オンラインを含めた学習のセーフティネットが広く行き渡りチャレンジする機会を平等に得られる社会である。</p>	<p>受験勉強のために連日利用していた生徒たちが、自分たちでインスタントラーメンの調理にチャレンジしている様子。</p>	
<p>●団体の社会的役割(ミッション)</p>	<p>当団体の社会的役割は「困難な環境に生まれ育っている子どもたちを学習面から支援し、希望する進路に挑戦する機会が得られるようサポートする」ことである。そのため、以下のことに取り組む。</p> <p>(ア)食事つき個別指導型無料塾「ステップアップ塾」の運営を通じた学習指導と、「自ら学ぶ人」になるよう学習計画立案-実行の習慣づけを指導する場の運営</p> <p>(イ)食事つき無料自習室「STUDY CAMP」を通じた家に学習環境がない子どもへの自習の場の提供</p> <p>(ウ)(ア)(イ)を利用する子ども達への教室・自習室での食事提供とフードバンク等食支援情報の紹介</p> <p>(エ)無料カウンセリングの実施や講師ボランティアとの心のつながりを作る等のメンタルケア</p>		<p>■ 活動報告</p>
<p>●団体の活動基盤</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● (A) 望ましい人的資源 <ol style="list-style-type: none"> 1.学生ボランティア講師：毎年塾生人数×2.5倍以上登録、食事づくり、教室運営、自習室管理者など運営スタッフ：8名、3.広報スタッフチーム：5名4.webアプリ管理運営チーム：5名、5.常勤事務スタッフ：3名（フاندレイング含）、6.保健士スタッフ2名、7.支援情報担当者2名 ● (B) 望ましい物的資源 <ol style="list-style-type: none"> 8.自習室及び塾教室として使用可能なスペース 9.食品や教材等の支援団体及びその寄贈が受けられる他団体とのネットワーク 10.テキスト印刷の協力、ノート、文房具等の寄贈が必要に応じて受けられるネットワーク 11.無料で利用できる教材 12.教室及び自習室に設置する利用者向けPC等端末 13.授業運営・教室管理・授業改善に向けた実験的取り組みに耐える通信端末 ● (C) 望ましい活動資金 <ol style="list-style-type: none"> 14.賛助会費によって管理費がほぼまかなわれ、個人会費及びパートナー会費＋自主事業収入＋寄付によって事業費のほとんどがまかなわれる資金状態。 15.自習室の拠点を増やすことで開催地での認知度と寄付額を増やし、更に新たな拠点を増設・展開できる資金状態。 ● (D) 望ましい情報 <ol style="list-style-type: none"> 16.拠点新設時におけるノウハウ 運営を通じて得られたノウハウを開設マニュアルとスタッフマニュアル・スタッフ育成プログラムとしてまとめた情報、受益者向けPC等苦手意識克服に向けた使い方マニュアル 17.受益対象者向け支援情報 食事・給付金および奨学金や保護者の雇用など受益対象者向けのまとめ情報 		
<p>◆無料学習室STUDY CAMPの運営</p> <p>自宅に自室や学習机などの自習する環境がないといった困難を抱える小学生～高校生に向けて、都内二か所で軽食や教材・コピー機等がある無料の自習室を平日夜に毎日開催し、学習の場と居場所の提供を行った。のべ利用者数は、昨年度と比較して倍増する結果となった。</p> <p>◆支援情報提供</p> <p>子ども食堂の情報・フードバンク情報・奨学金の情報など支援情報を集め、毎月更新して自習室内での紹介をする他、利用者や保護者へメールで情報発信を行った。利用者数は低い値に留まったため、情報発信と内容の在り方に見直しが必要。</p> <p>◆集中力測定webアプリの利用</p> <p>教室内で学習時の集中力を測定するアプリを開発した。集中時間をポイント化し景品と交換できるシステムとすることで利用者の拡充を図ったが、利用者全体にITリテラシーの低さが見受けられ、利用者拡充の起爆剤としての役割を果たすまでにはいくつかのハードルがあることが分かった。</p>	<p>◆無料自習室STUDY CAMPの運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間開催数：西新宿・新江古田共に221回／のべ利用者数：915人 ・利用登録者数：166名（定員の41.5%・未達成） ・年間20回以上の利用者：登録者の10.2%（目標達成） ・アンケート回答者（利用者の37.9%）中40.0%が学業に好影響と回答（未達成） ・利用頻度：年間平均月1回以上が登録者の13.8%（未達成） <p>◆利用者への支援情報の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食支援：利用登録世帯の5.0%が利用したと回答（未達成） ・奨学金：利用登録世帯の3.1%が利用したと回答（未達成） <p>◆アプリの活用及び特典利用：年間のアプリ利用登録者は7.8%（未達成）</p> <p>◆活動基盤強化</p> <ol style="list-style-type: none"> ①賛助会員数：新規1社増加（未達成） ②活動主体となる賛助会員：新規1社増加（目標達成） ③パートナー会員：変動なし（未達成） 	<p>外国籍の利用者の方が、積極的にPCやwebアプリを利用する傾向にあった。</p>	
<p>■ 事業を通じて得られたノウハウ</p> <ol style="list-style-type: none"> ①利用者が昨年度より増加したが、依然として申込から利用に至るまでにハードルがある様子が見られる。アンケートから「同じ区内だが、家や学校からそれほど行きやすい場所ではない」といった、会場へのアクセスの問題が理由に挙げられた。 ②申込理由は「静かな場所で勉強したい」が圧倒的に多く、「下の兄弟が騒がしい」「自分の部屋がない」といった問題や「家でエアコンが使えない」というケースも見られた。 ③一定期間頻繁に利用していたが途中で利用しなくなった人から「受験が終わったため」の他、「塾通いができるようになったため」という理由を確認した。 ④「支援」という印象が嫌われる場合もあることを支援施設等の職員から確認したので、利用しやすさを向上させるイメージへの変更を、次年度から行う。 ⑤支援情報をQRコードからポータルサイトへアクセスする、という形にしたことで、昨年度の「より多くの区内の開催情報がほしい」という要望には対応できたが、ITリテラシーが低い家庭ではアクセスが難しく、支援情報の活用世帯は低い水準に留まった。 ⑥集中力測定webアプリについて、年度途中で計測の精度向上に注力したが、途中方針を変え「利用しやすさ」「特典商品の魅力アップ」に着目する方針に。今年度は利用促進への目標達成へと作用しなかった。 ⑦新拠点の開催準備を通じて、マニュアルの有効性を確認できた。 	<p>■ 望ましい社会状況を達成するための課題</p> <p>当団体が望む社会状況とは、生まれ育った環境（家庭・学校環境）によって、学習や進学の機会が損なわれないことがない社会の実現である。そのため、学習環境をはじめ情報に、利用者である子ども達自身が簡単にアクセスできる状況を全国に展開することが必要であると考えている。</p> <p>上記の目的から、この1年間の自習室運営を通じて以下の課題を見出すことができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●申込をしてから利用に至るまでの導線を再度点検して、改善する（周知の方法、看板の掲示方法、室内での利用案内、その他）。 ●保護者ではなく子ども自身のモチベーションが高い状態で申し込めることがほとんどであるため、子ども目線の情報へのアクセス、申込のわかりやすさ、利用のしやすさ、継続的な利用促進を追求する必要がある。 ●困難を抱える子ども達が、簡単にアクセスできる場所を全国各地に設置することが重要であると考えている。そのため、現時点で最もまとまった開催方法である「トレーラーハウス型」教室の展開方法を検討中。 	<p>■ 活動成果のアピールポイント（自由記入）</p> <p>この1年間の活動を通じて</p>	<p>昨年度の約2倍にあたるのべ915人の利用</p> <p>を達成しました。</p> <p>■ 受益者の具体的な変化（自由記入）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受験勉強のために利用していた生徒が、利用期間の間に無事に合格し進学先が決まった。 ・支援情報から奨学金に申請し、塾通いを始めることができた。 ・中1のころから時々利用していた生徒が、中3になり頻度を上げて利用するようになった。